

公益社団法人 日本技術士会近畿本部登録 環境研究会 第72回特別講演会要旨

日時：2015年11月16日(土) 18時30分～20時30分

場所：大阪市 アーバネックス備後町ビル3階ホール 参加者40名

講演：ミャンマーが日本の技術に期待すること

小川モモウ 中小機構国際化支援アドバイザー（ミャンマー国出身）

砂田 純二 関西ミャンマー経済交流センター 副理事長

本講演会では、「ミャンマーが求める環境技術を含む、日本の技術」について講師から提言をいただいた上で、参加者から「ミャンマー側がまだ知らない日本の技術」などの提案をいただき、相互の意見を交わす形式で行った。

ミャンマーが求めるもの、現時点での課題

日本は、欧米の先進国が援助を見合わせる中、ミャンマーの軍政時代も政府援助を続け、民間ベースでも細々ながらパイプをつないできた結果、日本に親近感を持ち有益な援助を期待するミャンマーの人々が多い。現在のミャンマーは、停電と盗電、ガスなどエネルギー問題、水、交通渋滞、ごみ・産業廃棄物の環境問題など、様々な課題を抱えている。政府が行うODA支援は規模が大きく手続き審査に手間が掛かる問題があり、もっと民間ベースで軽便な技術協力が求められている。

ミャンマー人であるモモウ講師から、次のようなミャンマー側の要望が話された。

①日本の技術力に大いなる関心がある、②品質管理・ノウハウを教えてもらいたい、③IT関連企業に興味がある、④人材育成をお願いしたい、⑤日本のサービス精神にあこがれがある、⑥日本からの投資に期待する、⑦日本に出遅れてもらいたくない。

砂田講師からは、父親である元プロサッカー選手、故岩谷俊夫氏（日本サッカー協会殿堂入り）が取り持つ縁でミャンマー財界人との付き合いができた経緯、ミャンマーにすでに進出をしている日系企業の実情、環境技術への支援の現状などが話された。

ミャンマーの持つ課題に対する提案（シーズ）が求められており、次の様な課題があるとの指摘がなされた。①冷凍車（ヤンゴン以外の郊外）、薬、医療、予防接種（定温倉庫含む）が必要、②消防車、救急車、ゴミ回収車が必要、③停電と盗電、ガスなどエネルギー問題の解決策、④水、交通渋滞、ごみ・産業廃棄物の環境問題への対応。

質疑応答（抜粋）

Q 電力状況はどうか？

A ヤンゴン市内でもほぼ毎日2回程度の停電。ただしティラワ経済特区は問題ない。

Q ベトナム・バングラデシュと比べてミャンマーはどうか。

A 両国に劣らず手先が器用で、まじめな労働力資源と言え、識字率は90%以上で向上心もある。日本語を学ぶ姿勢もあり日本との結びつきが増えていくのではないかと。

Q 技術資格制度などの国の形、社会システムづくりはどうか。

A 今後民主化されて法制度の整備が進んでいくことを期待している。

Q 個人技術者がミャンマーに進出したい場合どうするのが一番よいか。

A 中小機構に相談すれば、技術分野・目的により全面的なバックアップが可能。

以上の他、学校と学会などを結びつける組織やシステム、廃棄物処理、天然ガスや水力による電気などが中国へ流出している話など、広範囲で活発な質疑がなされた。

文責（寺川博也・藤井 武）：詳細は機関紙参照